

事例で深める!

学習評価

実践校の取り組みを基に、
学習評価をより充実させるポイントを
田村先生がアドバイス

福岡県立宗像高校

むなかた

定期考査に偏らない評価方法を 小テストや振り返り等で模索

評価の安定性と信頼性を 高めるため、評価規準は必要

田村 観点別学習状況の評価において、2024年度に新たな評価方法を取り入れたそうですね。

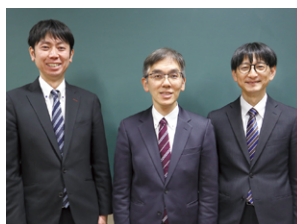
飯田 私が担当する1年生の数学では、生徒が自ら学習計画を立てて継続的に学ぶ習慣を身につけてほしいと考え、「知識・技能」の評価材料を定期考査と週1回実施する小テストにしました。それにより、定期考査では「知識・技能」を評価する問題の数を減らし、「思考・判断・表現」を評価する問題の数を増やすことができました。「主体的に学習に取り組む態度」は、授業の振り返りと取り組んだ課題の記録表の

記述を見取って評価しています(図①)。授業開きの時に、生徒にその評価方法と趣旨を説明しました。

田村 生徒に期待する学習習慣の定着度を評価するために評価方法を変えたのですか。手応えはありますか。

飯田 生徒の学習状況を多面的に捉えて評価することができるようになりました。例えば、数学が苦手な生徒の振り返りから、解答を間違えても粘り強く考えていたり、授業を通じて成長できたと実感したりしている様子を見取ることができました。
田村 生徒が自身の内面や行為を丁寧に見つめ、気づきを言語化する場面があるのはよいですね。学びの意味づけや価値づけをすることで、自分の変容や成長を実感できれば、

福岡県立宗像高校プロフィール



左から／大岡裕太(理科[物理]、主幹教諭、教育推進部長)、伊原豊(教頭)、飯田啓介(数学科、指導教諭、研究開発部長)

設立 1919(大正8)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約400人
2023年度卒業生進路実績 国公立大は、千葉大、電気通信大、東京外国語大、京都大、大阪大、九州工業大、九州大、福岡教育大、長崎大、熊本大などに131人が合格。私立大は、東京理科大、早稲田大、同志社大などに延べ526人が合格。

解説者



文部科学省 初等中等教育局
主任視学官
田村 学 たむら・まなぶ

専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官、國學院大學教授などを経て、現職。著書に、『学習評価』(東洋館出版社)など多数。

次の学習に向かう動機づけとなり、結果的に「主体的に学習に取り組む態度」の醸成につながります。
飯田 課題を自分で先に進める生徒も現れ始め、学習に対する主体性の高まりを感じています。
田村 今後は、生徒に期待する「主体的に学習に取り組む態度」が、具体的にどのような姿なのかを言語化し、振り返りの記述に対する評価規準を設定するとよいと思います。課題の提出回数や提出時期の早さなどに頼らない評価規準があれば、さらに安定した評価がで

※プロフィールは、2025年3月時点のものです。

【図】 田村先生からの評価方法についてのアドバイス

1 1年生の数学の「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

● 2024年度の評価方法

授業の振り返り 毎授業、振り返りフォームを配信。生徒は学習内容の理解度を4段階で自己評価し、「今回の授業で学んだ解決手順、解法のポイントなどを自分の言葉でまとめよ」「解決することができずに残った疑問、復習すべきポイントなどを自分の言葉でまとめよ」といった質問項目に回答する。無回答でなければ1点。学期末に累積点を10点満点に換算する。

課題の記録表 課題に取り組んだ日（計画を立てて取り組んだか、提出日直前に取り組んだか）、理解度（生徒が4段階で自己評価）、取り組んだ回数（理解度が低い場合、理解できるまで取り組んだか）を見取り、それらができていれば2点、あまりできていなければ1点。学期末に累積点を20点満点に換算する。

田村先生からのアドバイス

まずは教師が生徒に期待する「主体的に学習に取り組む態度」は、具体的にはどのような姿なのかを言語化して評価規準としましょう。その姿を振り返ることができる質問項目を設定します。生徒が書いた内容を評価規準に沿って評価すれば、より安定した評価をすることができます。さらに評価規準を生徒と共有すれば、こんな生徒になってほしいという教師のメッセージが伝わります。

2 パフォーマンス課題の設定

● 現在構想中の課題

単元ごとに実施する数学のパフォーマンス課題を構想中。具体的には、生徒が単元内で身につけた知識を組み合わせて解く問題と、その模範解答を作成する、または作成した問題を生徒同士で出し合い、それぞれ模範解答をつくるといった課題を考えており、実施時間の確保や実施時期などが検討課題。

田村先生からのアドバイス

問題作成では、身につけた知識を活用することができているか、模範解答の作成では、他者が理解することができる説明ができているかなどが評価規準になりますし、生徒同士で解き合うことは、問題の適正さや質の高さを評価し合う場にもなります。まずは、学期に1回でも実施することができるとういことです。その場合、複数の単元を対象とするか、1つの単元のみを対象か、生徒の実態を踏まえた課題設定が重要です。そして課題の内容を単元の冒頭で伝えれば、生徒は目的意識を持って授業で学べるようになり、授業が活性化するでしょう。

※取材を基に編集部で作成。

校内で早速実践します。

教師間で評価方法などを学び合えるとともに、教師の指導観や評価観の転換にもつながるはずですよ。

飯田 英語科では既にスピーキングのパフォーマンス課題を実施していて、私は数学のパフォーマンス課題の実施を検討中です（図2）。

田村 学習評価に求められるのは、妥当性と信頼性です。その点で貴校では「多様性」が重要になると考えます。単元テストや振り返りの記述、パフォーマンス課題などを評価材料に加えることは、教師が生徒一人ひとりのよさや改善点などを的確に評価することにつながります。一方で、評価の方法や場面が増える

と教師の負担が大きくなります。新しい評価方法を実施した後は、その評価が生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものだったのかを検証し、効果がなければ評価方法を変更するなど、試行錯誤することが評価の安定化につながります。

伊原 教師間で育てたい生徒像を明確化し、学習評価の方法を共有する必要を改めて実感しました。

きるようになります。生徒と評価規準を共有すれば、評価の信頼性も高まるでしょう。

大岡 授業中に振り返りの時間を確保しにくいことが課題の1つです。

田村 振り返りは毎授業しなければならぬものではありません。単元や題材のまとまりごとに振り返るといった頻度でも十分です。そして、教師の説明だけでなく、生徒が自身の学びを振り返る活動も学習内容の理解を深めることにつながるという認識を教師が持ち、振り返

りの時間を確保する単元計画を立ててみてください。「知識・技能」「思考・判断・表現」についても、テスト以外の評価を心がけたいですね。

1学期の中間考査の廃止を教師の評価観を転換する機会に

伊原 25年度は、全学年で1学期の中間考査を廃止する予定です。本校内にある宗像中学校は、24年度から1学期の中間考査を廃止し、代わりに導入した単元テスト等を評価材

料にしましたが、適切に評価することができたため、高校でも中間考査の廃止は可能だと判断しました。

大岡 1学期の中間考査の廃止が、教科・科目単位で学習評価の方法を見直すきっかけとなり、評価材料が定期考査に偏っている状況から変わることを期待しています。

田村 ぜひ、1学期末や夏季休業中に、各教科・科目がどのような学習評価を実践したのか、評価の目的・場面・内容・方法を教科を超えて校内で丁寧共有してください。

教師間で評価方法などを学び合えるとともに、教師の指導観や評価観の転換にもつながるはずですよ。

飯田 英語科では既にスピーキングのパフォーマンス課題を実施していて、私は数学のパフォーマンス課題の実施を検討中です（図2）。

田村 学習評価に求められるのは、妥当性と信頼性です。その点で貴校では「多様性」が重要になると考えます。単元テストや振り返りの記述、パフォーマンス課題などを評価材料に加えることは、教師が生徒一人ひとりのよさや改善点などを的確に評価することにつながります。一方で、評価の方法や場面が増える